

平成 29 年度  
運営に関する計画  
最終評価

大阪市立鷺洲小学校

## 年度目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### ～いじめ・暴力行為・不登校の解消にむけて～

##### 全市共通目標（小・中学校）

- ①平成29年度末の校内調査において、学校で認知たいじめについて、解消した割合を現状維持（95%以上）する。
- ③平成29年度末の校内調査において、暴力を複数回行う加害児童数を現状維持する。  
（平成28年度 0件）
- ④平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を現状維持、もしくは減少させる。  
（平成28年度 全校児童数 523名中1名）

##### 学校園の年度目標

- ⑥校内調査において「自分の考えを素直に相手に伝えることができる」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ⑦校内調査において「自分にはいいところがある」「友達にはいいところがある」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ⑧学習活動を通して「鷺洲の町が好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ⑨先生や友達、地域の人に対して「相手に伝わる気持ちのよい挨拶ができる」と回答する児童の割合を80%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①③④【施策1 安心できる学校・教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が安心して学校生活を送ることができるよう、毎月1回、教職員全体で児童に関する情報を共有し、複数体制で問題解決にあたる。</li> </ul> <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の情報が共有でき、その後の対応も含め、課題解決に向けた取り組みができたと回答する教職員の割合を90%以上にする。</li> <li>・いじめ・暴力行為・不登校の発生件数を前年度と比較し現状維持もしくは減少させる。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>取組内容①③④⑥⑦【施策1 安心できる学校・教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が充実した学校生活を送ることができるよう、互いに学び合い、高めあう学習活動を開く。</li> </ul> <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内調査において「自分の考えを素直に相手に伝えることができる」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・校内調査において「自分にはいいところがある」「友達にはいいところがある」と答える児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	<b>A</b>
<b>取組内容①③④⑧⑨【施策1 安心できる学校・教育環境の実現】</b> <p style="text-align: center;"><b>【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人や教材に学ぶ学習を通して、地域の人とつながり、地域のよさに気付くことができるようとする。</li> <li>・地域の人とのつながりを大切にし、互いに挨拶を交わす中で、地域の方々に学校教育に対する関心を持っていただくとともに、児童の健全育成につなげる。</li> </ul> <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動を通して「鷺洲の町が好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・先生や友達、地域の人に対して「相手に伝わる気持ちのよい挨拶ができる」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

##### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・すべての目標において、指標である数値を上回った。
- ・学校・学年で児童の情報を共有し、複数体制で課題解決に臨むことができた。また、タブレットを活用して顔写真を認識することも児童理解に効果的であった。
- ・学習中や、朝・帰りの会などのよいところを見つけ合う活動を通して、児童に自尊感情、互いに認め合う心が育ってきた。
- ・生活科・総合の学習や、地域・人をつなぐカリキュラムの工夫により、鷺洲の町を愛する気持ちが育ってきた。また、学級やグループで話し合う場面、インタビューをする活動などが増えたことにより、自分の考えを相手に伝えられるようになってきた。
- ・挨拶については、「できる」と思っている児童は増えたものの、声の小ささや相手に伝わる挨拶が課題である。

## 年度目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】～事故・けがの防止～

#### 全市共通目標（小・中学校）

②平成29年度末の経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合（90%以上）を現状維持とする。

#### 学校園の年度目標

⑤自分や友達が、安心し安全に生活するために、校内調査の「状況をよくみて行動していますか」などの項目に対する肯定的な回答の割合を80%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容②⑤ 【施策1 安心できる学校・教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導部を中心に、毎月「生活指導目標」を設定し、目標達成に向けて週1回の児童朝会で講話を行う。</li> <li>交通安全指導・防災訓練等、安全に係る取り組みを年間通して計画的に行い、状況を判断して行動する子どもを育てる。</li> </ul> <p><b>指標</b>   ・校内調査において「学校のきまりを守っている」と肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。                    ・校内調査において「状況をよく見て行動している」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<b>取組内容②⑤ 【施策1 安心できる学校・教育環境の実現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の環境整備や毎月1回の安全点検を通して、事故の防止に努める。</li> <li>廊下・階段の歩行、教室内での過ごし方など、安全指導を充実させ、校内で怪我をした児童の割合を年度当初より減少させる。</li> </ul> <p><b>指標</b>   ・校内調査の「学習環境を整備し、安全に配慮している」と回答する教職員の割合を100%にする。                    ・毎月の保健統計を共有し、けがをした児童の割合を年度当初より減少させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週の児童朝会や朝の会で生活目標を意識させていることで、決まりを守ろうとする児童が増えてきており、「学校のきまりを守っている」と考えている児童は9割を超えている。</li> <li>○防災訓練は、昼休みの避難訓練を行うなど年間を通して様々な災害や状況に応じた訓練を執り行い、児童は災害に対する意識を以前よりもつようになってきている。</li> <li>○階段の矢印や白線、保健室前の「あるこう」マークにより、気を付けて歩く児童がふた。</li> <li>○日々の安全点検や階段などの足型設置等により、児童の安全を守り、事故防止に努めている。現時点では、けがについては徐々に年度当初より減少しつつある。</li> <li>○「学校のきまりを守っている」という児童が90%を超えていたが、いまだに廊下や階段を走っていたり、運動場からすぐに帰れなかつたりと、まだ守れていない児童もいるので継続的な指導が必要である。</li> <li>○周りが見えていない児童もあり、大きなけがにつながるケースもあった。</li> <li>○生活課や図工の作品、材料の置き場に困り、廊下に置くことがあるが、危ないと感じることがあった。校内での児童の過ごし方も生活指導目標を通して指導を継続していく必要がある。</li> <li>○運営委員会の年間活動の中に呼びかけ等を取り入れていくのもよい。</li> </ul>	

## 年度目標

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】～学力向上～

⑩平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、現状維持もしくは前年度より向上させる。

**平成28年度学校の標準化得点 105**

⑪平成29年度の小学校学力経年調査におけるC分布に属する児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も現状維持もしくは前年度より減少させる。

**平成28年度 学校のC分布 7%**

⑫平成29年度の小学校学力経年調査におけるA分布に属する児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も現状維持もしくは前年度より増加させる。

**平成28年度 学校のA分布 71%**

⑬平成29年の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、現状維持もしくは前年度より増加させる。

**平成28年度 学校 69. 5%**

#### 学校園の年度目標

⑮「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりを推進し、「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容⑩⑪⑫ 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> ひとり一人の子どもにとって「わかる授業」をめざし、習熟度別少人数授業をはじめとした個に応じた指導を推進する。	B
<b>指標</b> · 平成29年度の小学校学力経年調査において「標準化得点の向上」、「C分布に属する児童の割合の減少」、「A分布に属する児童の割合を増加」をめざす。	
<b>取組内容⑬⑮ 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> <b>【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> · 学びに向かう姿勢を高めるために、日々の授業にループリックを用いて「学習のめあてを明確」にし、ループリックに照らして「学習の到達度を振り返る」授業を進める。 · 学びに向かう姿勢を高めるために、日々の授業に思考ツールなどを用い、「ひとり一人の子どもが、自分の考えをもち、これを出し合う」場を設ける。	B
<b>指標</b> · 校内調査の「 <u>学級の友達との間で話し合う活動</u> を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の問い合わせに対して、肯定的に回答する児童の割合を、増加させる。	
<b>取組内容⑬⑮ 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> · 1年を通して、教育効果を高めるカリキュラム編成をめざす。 · 「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりを推進するために、ループリックや思考ツールを導入するなど、指導法の改善に取り組む。	B
<b>指標</b> · 校内調査において、「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○習熟度別学習やICT機器の活用を図ったり、思考ツールを取り入れたりするなど、「わかる授業」に取り組んできた。また、ループリックを用いてめあての明確化と振り返りを行ってきた。そのため、主体的で対話的な学びが実践できている。思考ツールの使い方については、校内で系統化する必要がある。	
○カリキュラムについては、生活・総合を軸に教科の内容を中心であるが、資質・能力を視野に入れながら編成した。	

## 29年度目標

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】～体力向上～**

⑭すべての学年において、特に課題である「走の種目（50メートル走）の平均の記録を、年度当初より0.5秒向上させる。

**学校園の年度目標**

⑮体力・運動能力を向上させるための研修を推進し、「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を増やす。

29年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容⑭⑮ 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた体力向上への取組】</b> ・学びに向かう姿勢を高めるために、日々の授業にループリックを用いて「体育学習のめあてを明確」にし、ループリックに照らして「学習の到達度を振り返る」授業を進める。 ・年間を通して、運動に親しむ習慣づくりや、身体を動かす楽しさを味わわせる取組を進める。	B
<b>指標</b> ・「 <u>学級の友達と交流し、話し合う活動</u> を通じて、自分の体の動かし方、体の使い方を工夫し、運動能力や技能を高めようとしたか」の問い合わせに対して、肯定的に回答する児童の割合を、増加させる。	
<b>取組内容⑯ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b> ・基礎体力・運動能力の向上をめざし、体育の年間指導計画に従って、授業の充実を図るとともに、児童が進んで運動に親しむ機会を設ける。	B
<b>指標</b> ・全ての学年で、「 <u>50メートル走</u> 」の平均の記録を、前年度当初より0.5秒向上させる。	
<b>取組内容⑰⑱ 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> ・1年を通して、教育効果を高めるカリキュラム編成をめざす。 ・「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりを推進するために、ループリックを導入したり、互いに高め合う場を設定したりするなど指導法の改善に取り組む。 ・体力・運動能力を向上させるための研修を推進し、「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。	B
<b>指標</b> ・校内調査において、「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。	

## 29年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○体育学習のめあてを明確にするために、ループリックを用いて学習の到達度を振り返ることができた。話し合い活動については、学年に委ねたため、学年にはばらつきがあった。児童アンケートの結果では「めあてをしっかりとあって学習し運動する力が伸びた」の項目では全体の80%の児童が結果を残すことができた。

○昨年度の課題であった基礎体力・運動能力を高める運動を意識した、体育朝会や体育の準備運動を工夫したことでの、体力の高まりが見られ、昨年度の数値を上回る学年が多く見られた。しかし、大阪市の平均に至らない学年もあり、今年度の活動を継続し、体力の向上を図りながら体育の年間指導計画をしていくようとする。

○年間計画に沿って走の授業に取り組み、成果を出すことが少しずつできたが、教職員のアンケートの結果では「指導力の向上」「指導の効果があがった」の項目で80%以上にすることができなかつたため、次年度は、指導法の改善・研修に取り組めるようにする。